

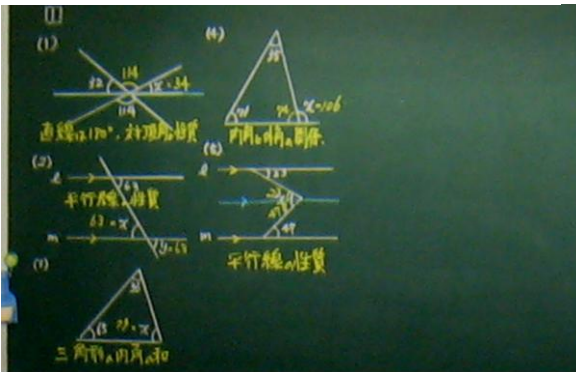
単元名 「図形の調べ方」

目指す生徒の姿

- ・一つの事柄を説明する際に様々な方法を考え、自分の考えだけでなく、互いに交流することで他の方法を知り、そのよさに気付くことができる。
- ・すでに明らかになったことを用いて推論を進め、説明することができる。

学習活動の様子(第4時/全15時間)

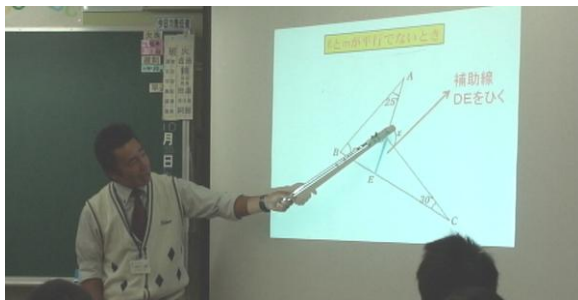
1 既習内容の復習問題を解く。



既習内容の復習を通して、補助線の活用の重要性を確認させた。

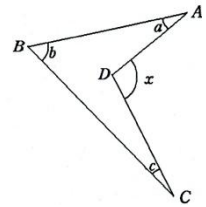
指導者のコメント

2 $\angle x$ の大きさを求める方法を考える。



課題が平行線に挟まれた角の図が変形された図(平行でない場合の図)としてとらえ、コンピュータを活用し、既習課題と関連した課題として把握できるようにした。

3 くさび形の角の大きさの関係を文字を使って説明する。



課題解決の場面において、個々に解決方法を検討する場面と、自分の考えを小集団に発表する場面を設定した。また、数学的な用語を活用し、他者へ説明する力をつけさせるとともに、表現力の向上につながるように工夫した。



指導のポイント

- ・コンピュータを活用し、くさび形を2直線が平行でない場合の図として認識させることにより、課題を把握させる。
- ・数値による問題を通して補助線の引き方を工夫させる。
- ・自分の考えを他者に説明する活動において、他者の考えを解釈することも大切である。図に補助線を入れたところまでを生徒に発表させ、そのころどのように考えたのかを推測して、別の生徒に説明させる。